



平成26年7月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成25年12月12日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社ファーマフーズ
コード番号 2929 URL <http://www.pharmafoods.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 金 武祐

問合せ先責任者 (役職名) 総務部部長

(氏名) 新谷 義信

TEL 075-394-8600

四半期報告書提出予定日 平成25年12月12日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年7月期第1四半期の業績(平成25年8月1日～平成25年10月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年7月期第1四半期	338	2.1	1	△97.6	16	△80.3	15	△80.0
25年7月期第1四半期	331	23.8	60	—	85	—	79	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年7月期第1四半期	1.35	—
25年7月期第1四半期	6.75	6.75

(注1)平成26年7月期第1四半期の「潜在株主調整後1株当たり四半期純利益」につきましては、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(注2)当社は、平成25年8月1日付で普通株式1株につき200株の割合で株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して「1株当たり当期純利益」及び「潜在株式調整後1株当たり当期純利益」を算定しております。

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%		
26年7月期第1四半期	3,040		2,692		88.6	
25年7月期	3,068		2,665		86.9	

(参考) 自己資本 26年7月期第1四半期 2,692百万円 25年7月期 2,665百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年7月期	—	0.00	—	0.00	0.00
26年7月期	—	—	—	—	—
26年7月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年7月期の業績予想(平成25年8月1日～平成26年7月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	700	15.4	△55	—	△40	—	△45	—	—
通期	1,750	14.8	45	△79.3	50	△83.9	45	△83.3	3.83

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

26年7月期1Q	11,760,000 株	25年7月期	11,760,000 株
----------	--------------	--------	--------------

② 期末自己株式数

26年7月期1Q	— 株	25年7月期	— 株
----------	-----	--------	-----

③ 期中平均株式数(四半期累計)

26年7月期1Q	11,760,000 株	25年7月期1Q	11,750,000 株
----------	--------------	----------	--------------

(注)当社は、平成25年8月1日付で普通株式1株につき200株の割合で株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して期末発行済株式数、期末自己株式数及び期中平均株式数を算定しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく監査手続の対象外であります。なお、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく財務諸表の監査手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、上記の予想の前提条件その他に関する事項については、【添付資料】3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、政府の経済政策や日銀の大胆な金融緩和により、円安や株価上昇が進行するなかで、輸出環境が改善し、消費支出が活発に推移する等、緩やかな景気回復が続きました。

このような経営環境下において、当社は「医薬と食の融合」というコンセプトに基づき、事業部門を機能性素材部門、機能性製品部門、バイオメディカル部門及びL S I (Life Science Information)部門と定めて事業活動に取り組んでまいりました。

開発面における主な取り組みとしまして、ワキ製薬株式会社と共同開発により、麹菌由来の抗血栓素材「F I B L E X I N (フィブレキシン)」の開発に成功いたしました。当該素材は麹菌から独自製法により開発したものであり、循環器疾患の主要因である血栓症を予防する効果を持っております。

また、予てより研究開発を進めておりましたランペップにおきまして、「NO (一酸化窒素) 産生促進組成物及び男性機能改善」に関する特許を取得いたしました。

営業面における主な取り組みとしましては、通信販売事業「タマゴ基地」での広告宣伝の媒体として、ラジオ、新聞広告に続き、新たにテレビCMを開始するべく活動を開始いたしました。オリンピックで2大会連続のメダリストである有森裕子様と年間契約を結び、「タマゴサミン」の認知度向上を図ってまいります。

また、葉酸たまごビジネスを海外で本格展開を進めるべく、マレーシアにおいて現地企業と提携し事業を開始しております。

各部門別の概況につきましては、以下の通りです。

機能性素材部門におきまして、鶏卵抗体(製品名：オボプロン)につきましては、同製品が採用されているグリコ乳業株式会社の「ドクターPiroヨーグルト」が宅配ルート及び全国の一部高級スーパーで引続き販売されております。通販事業におきましては、インフルエンザ予防関連製品「マケンザX」「マケンザスプレー」を販売しております。また、抗歯周病鶏卵抗体配合の犬用オーラルケアガムが、「L I O N」のシリーズ製品から発売されております。この他、ロート製薬株式会社より抗虫歯抗体配合の「ミガック」が発売されております。

ギャバ(製品名：ファーマギャバ)につきましては、同製品が採用されております江崎グリコ株式会社の「メンタルバランスチョコレートGABA」が引続き販売されております。この他、サプリメントメーカー、化粧品メーカーでも引続き採用されております。海外では、北米地域での売上が好調に推移いたしました。

ボーンペップ(製品名：BONEPEP)につきましては、同製品が採用されているロート製薬株式会社の「セノビック」及び韓国ヤクルト社から「新鮮な一日の牛乳」が引続き販売されております。海外では台湾向けの売上が順調に推移いたしました。

ランペップ(製品名：RunPep)につきましては、血流改善効果、運動疲労軽減効果を持つ同製品を採用した製品が国内大手サプリメントメーカーより販売されており、前期と同水準で推移いたしました。

葉酸たまご事業関連では、国内でテーブルエッグを販売しているほか、飼料用サプリメントとして「ファーマバイオミックス」を販売しております。テーブルエッグの販売単価の改定及びファーマバイオミックスの発注タイミングのズレにより低調に推移いたしました。

新規機能性素材「i H A (アイハ)」につきましては、株式会社エバーライフより発売のヒアルロン酸サプリメント『皇潤』に採用されており、堅調な売上でありました。

これらの結果、機能性素材部門全体では、売上高211百万円(前年同四半期183百万円、前年同四半期比15.1%増)となりました。

機能性製品部門におきましては、通販販売事業「タマゴ基地」で販売の「i H A」配合のサプリメント「タマゴサミン」が好調に推移したことやOEM事業でもランペップ配合の新製品の発売開始等により、売上高50百万円(前年同四半期29百万円、前年同四半期比73.5%増)と売上を伸ばしました。

バイオメディカル部門におきましては、鶏卵抗体の実用化技術として、検査薬・医療食・メディカルデバイス製品等といった次世代製品の開発を進めております。当四半期では、医薬品事業等への足がかりとした受託業務が発生しており、売上高6百万円(前年同四半期16百万円、前年同四半期比62.0%減)となりました。

L S I (Life Science Information)部門におきましては、医薬品メーカー・食品メーカー等から各種素材・製品等に関して分析・効能評価試験等を行っております。当四半期では、大口の受託試験の案件が完了したことにより、売上高70百万円(前年同四半期102百万円、前年同四半期比31.1%減)となりました。

以上により、売上高は338百万円(前年同四半期331百万円、前年同四半期比2.1%増)と増収となり、売上総利益については、188百万円(前年同四半期211百万円、前年同四半期比10.9%減)となりました。販売費及び一般管理費については、186百万円(前年同四半期150百万円、前年同四半期比23.6%増)となり、この結果、営業利益は1百万円(前年同四半期60百万円、前年同四半期比97.6%減)となっております。

経常利益、純利益では、為替差益7百万円等を計上した結果、経常利益16百万円(前年同四半期85百万円、前年同四半期比80.3%減)、四半期純利益15百万円(前年同四半期79百万円、前年同四半期比80.0%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

資産につきましては、現金及び預金の減少等により、当第1四半期会計期間末は前事業年度末に比べ28百万円減少し、3,040百万円となりました。

(負債)

負債につきましては、支払手形及び買掛金の減少等により、当第1四半期会計期間末は前事業年度末に比べ55百万円減少し、347百万円となりました。

(純資産)

純資産につきましては、四半期純利益の計上による利益剰余金の増加等から、当第1四半期会計期間末は前事業年度末に比べ27百万円増加し、2,692百万円となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の国内経済につきましては、経済対策や金融政策の効果が現れてきており、景気回復が続くと見込まれますが、一方では外交問題の影響や海外経済の懸念要因等もあり、予断を許さない状況が続くものと予測されます。

こうしたなか当社では、今期までに築き上げてきた基盤をもとに、大型投資を行います。次の3つの事業を柱として、更なる企業価値の向上を図ってまいります。

- ①機能性素材事業
- ②通信販売事業
- ③創薬開発事業

なお、第2四半期累計期間及び通期の業績予想につきましては、平成25年9月12日に発表しました業績予想数値から変更はございません。

なお業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社で判断したものであります。実際の業績は今後様々な要因によって、予想数値と異なる結果となる可能性があります。

2. 四半期財務諸表
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年7月31日)	当第1四半期会計期間 (平成25年10月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,201,877	1,033,012
受取手形及び売掛金	592,885	590,767
商品及び製品	107,979	105,415
仕掛品	1,033	1,033
原材料及び貯蔵品	21,301	21,110
その他	56,751	65,040
貸倒引当金	△12,565	△16,652
流動資産合計	1,969,263	1,799,726
固定資産		
有形固定資産		
建物	416,870	420,870
構築物	26,471	26,471
車両運搬具	15,180	15,180
工具、器具及び備品	174,185	182,053
土地	387,863	387,863
リース資産	16,703	16,703
減価償却累計額	△321,680	△327,271
有形固定資産合計	715,593	721,870
無形固定資産		
のれん	—	3,231
特許権	60	981
商標権	645	619
ソフトウェア	—	719
その他	285	276
無形固定資産合計	991	5,827
投資その他の資産		
投資有価証券	187,376	198,615
関係会社株式	57,535	78,245
関係会社長期貸付金	93,438	191,776
長期前払費用	656	602
その他	45,462	46,267
貸倒引当金	△1,364	△2,332
投資その他の資産合計	383,103	513,174
固定資産合計	1,099,688	1,240,872
資産合計	3,068,951	3,040,599

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年7月31日)	当第1四半期会計期間 (平成25年10月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	70,915	33,362
短期借入金	200,000	200,000
リース債務	797	797
その他	119,614	103,564
流動負債合計	391,327	337,725
固定負債		
リース債務	1,528	1,329
退職給付引当金	10,429	8,872
固定負債合計	11,958	10,201
負債合計	403,285	347,927
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,564,299	1,564,299
資本剰余金	1,415,003	1,415,003
利益剰余金	△332,055	△316,174
株主資本合計	2,647,247	2,663,128
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	18,418	29,544
評価・換算差額等合計	18,418	29,544
純資産合計	2,665,666	2,692,672
負債純資産合計	3,068,951	3,040,599

(2) 四半期損益計算書
第1四半期累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成24年8月1日 至平成24年10月31日)	当第1四半期累計期間 (自平成25年8月1日 至平成25年10月31日)
売上高	331,926	338,874
売上原価	120,908	150,834
売上総利益	211,017	188,039
販売費及び一般管理費		
役員報酬	14,573	17,620
給料手当及び賞与	18,217	19,933
法定福利費	3,871	4,451
旅費及び交通費	5,201	8,376
支払手数料	23,112	29,563
減価償却費	2,379	2,667
のれん償却額	—	121
研究開発費	55,319	43,655
貸倒引当金繰入額	△131	4,061
その他	28,408	56,118
販売費及び一般管理費合計	150,951	186,568
営業利益	60,065	1,470
営業外収益		
受取利息	2,106	2,224
為替差益	20,168	7,546
補助金収入	266	3,514
その他	2,646	3,294
営業外収益合計	25,186	16,579
営業外費用		
支払利息	317	302
貸倒引当金繰入額	△72	994
その他	—	9
営業外費用合計	245	1,306
経常利益	85,006	16,743
特別損失		
固定資産売却損	14	—
特別損失合計	14	—
税引前四半期純利益	84,991	16,743
法人税、住民税及び事業税	5,622	862
法人税等合計	5,622	862
四半期純利益	79,369	15,880

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

当社は、最高経営意思決定機関である取締役会において、評価に使用する報告資料等を事業セグメントで区分していません。

これは当社の事業形態が研究開発型の企業であり、各種製品の研究、製造、販売が密接に関係しており、市場並びに販売方法が同一である場合が多いことから、自社の組織構造において事業セグメントを区分していないためであります。

そのため、報告セグメントが単一セグメントとなりますので、報告セグメントごとの売上及び利益等の各情報につきましては、記載を省略しております。